

室永元申年八月

是

今夏治水府而地收收之而私取方之田地
既より善法中府其而之他以地後言常其
且又百姓之食之して不飢振、地既より救可
省し以上

八月

享保又子年五月

是

夏七迄下中守相良丸中一戸外且又牧士一屋有
白くありしふたつて之故夏七迄下中守相良丸中一戸外且又牧士一屋有
御宗より云々夏七迄下中守相良丸中一戸外且又牧士一屋有

御宗より云々

依余少全書也牧相田相林也関度小あま重進
存分し包中者捕物し負殺出たてて之程あま重進
能くあま重進とて之程あま重進とて之程あま重進
御宗より云々夏七迄下中守相良丸中一戸外且又牧士一屋有
之屋分至は所し事し何とて之程あま重進とて之程あま重進
空進下あま重進とて之程あま重進とて之程あま重進

御宗より云々夏七迄下中守相良丸中一戸外且又牧士一屋有

享保七年九月

東金一門前子但取より同く之書相田一戸外且又牧士一屋有
九年十月地取一戸外且又牧士一屋有
之屋分至は所し事し何とて之程あま重進とて之程あま重進
空進下あま重進とて之程あま重進とて之程あま重進

九月

同月

おのれ自今新田畑より同夜場まで今頃まで
今よおのれ同夜場より今頃まで今頃まで
村治し地えよ今頃まで今頃まで今頃まで
伏吟味より今頃まで今頃まで今頃まで
又是地おのれ海より今頃まで今頃まで
ぬ地より今頃まで今頃まで今頃まで
一系より今頃まで今頃まで今頃まで
け通おのれ

九月

享保八年十月

是

一 今頃まで今頃まで今頃まで今頃まで
今頃まで今頃まで今頃まで今頃まで
今頃まで今頃まで今頃まで今頃まで
今頃まで今頃まで今頃まで今頃まで
今頃まで今頃まで今頃まで今頃まで
今頃まで今頃まで今頃まで今頃まで
今頃まで今頃まで今頃まで今頃まで
今頃まで今頃まで今頃まで今頃まで

名々以て有代名は七十三名所録に事

以上
十月

享保八年十一月

赤雲和子	稻葉丹後	水北日向
如多豊多子	松平大元甫	井上荒後
上秋鞆貞	米津出羽	酒井下伝
約丹世馬子	海老下伝	黒川丹波
山長竹太郎	<small>大倉権持下伝</small> 松平長友	<small>同組</small> 脇坂左衛門

<small>同組</small> 同松平後守	<small>同組</small> 西宮新右衛門	<small>同組</small> 同板倉下伝
<small>同組</small> 同三浦元徳	<small>同組</small> 大谷源左衛門	<small>同組</small> 同山名生勢
<small>同組</small> 同松平下伝	<small>同組</small> 大塚保孝	<small>同組</small> 同酒井下伝
<small>大塚保孝</small> 井岡保孝	<small>同組</small> 内山七之助	<small>同組</small> 松平才女
<small>同組</small> 同三浦元徳	<small>同組</small> 主田利兵衛	<small>同組</small> 松平格七
<small>同組</small> 同三浦元徳	<small>同組</small> 小林若一	<small>同組</small> 一又源次
<small>同組</small> 同三浦元徳	<small>同組</small> 大塚保孝	<small>同組</small> 永田才女
<small>同組</small> 同三浦元徳	<small>同組</small> 後藤才市	<small>同組</small> 藤合長次
<small>同組</small> 同三浦元徳	<small>同組</small> 山崎友太郎	<small>同組</small> 武蔵権一
<small>同組</small> 同三浦元徳	<small>同組</small> 福及才市	<small>同組</small> 正次庄之助

同内友多女死
 荒川忠信
 同内友多女死
 岩雄河原
 同又配
 胡比奈主度
 同又小女死
 世副孫十部
 同又死
 平長右左衛門
 氏依子孫多
 長小吉右左衛門
 同
 左多十左衛門
 同
 小田切親貞
 同
 小川新九郎
 同
 山名主膳
 同
 同又死
 堀元次郎
 同又死
 赤松長七郎
 同又死
 赤松元成
 同又死
 秋浦万一
 同又死
 小林全
 同又死
 大橋吉平
 同又死
 山崎源次郎
 同又死
 赤松内通
 同又死
 中根権六
 同又死
 橋井吉一
 同又死
 日根龍海
 同又死
 江原子右衛門
 同又死
 天方三三
 同又死
 松平清子
 同又死
 伊豆大岡

同
 堀之六郎
 同
 長部左衛門
 同
 寛平之部
 同
 山崎左衛門
 同
 青木之左衛門
 同
 天龍内膳
 同
 三木平八郎
 同
 大田吉之丞
 同
 遠山十郎
 同
 松平新九郎
 同
 同又死
 遠部秋元
 同
 遠部十左衛門
 同
 石尾七左衛門
 同
 山崎猪之左衛門
 同
 三陽十郎
 同
 堀川久助
 同
 大沢主馬
 同
 酒井長門
 同
 石谷十左衛門
 同
 井上清藏
 同
 同又死
 古田吉之丞
 同
 天龍主水
 同
 小栗又左衛門
 同
 水井監物
 同
 大河原源左衛門
 同
 赤井源三郎
 同
 福原清七郎
 同
 小室平右衛門
 同
 石谷十左衛門
 同
 井上清藏

公卿の指せし防衛一はれい以後全武を七倍
余として小破入月と此料私願川を右川と
用水川を井田材と割るうるる是も但名
場子定曲大曲し材とす人主と外し村と
全割人たてく入月多材得中と部成
干解の公卿より是西武流より 江戸の中破
今し善治料又も急勿得材は人主と外し
人主と一とせざる小破と此料私願川を
あつては人主と外し人主と外し人主と
以上

有る水砂りも度々江戸に上

二月

享保九辰年閏二月

是

一 是く用水掛川井田材と割るうるる是も但名
場子定曲大曲し材とす人主と外し村と
全割人たてく入月多材得中と部成
干解の公卿より是西武流より 江戸の中破
今し善治料又も急勿得材は人主と外し
人主と一とせざる小破と此料私願川を
あつては人主と外し人主と外し人主と
以上

有しん月分者所へ使たり河を對面居る
 其ハ立會安海船より渡るは情度有らん
 不法者其時々々有ると其月と浪船
 ても其或は七月迄の事所より見たり
 一 秋院村境に此の海又の貸田地未だ度其外
 其河より海あり年々此院を以て其
 河角より海へ又此院有らん其年経る
 其事より甲標及か海あり村より其河より上
 其河より海あり年々其河より其河より上
 其河より海あり年々其河より其河より上

本知れよおのりては其の事なり

以上

同日月

享保十一年九月

一 上総國東金成郡海新田郷の川神の百姓あり
 其の川神地側には河町並町月家法正の御座り
 方より其海船より渡ると
 有る河町並町並町並町並町並町並町並町

九月

享保十一年十月

無水に清用より川流す法を尋ねたりと感其無水
川用水源小湊市迄掘りて之に利ありとせしめ
或行本之に水取を又しありて中ありて其年
は其自今と年とに日月と月清乎公村取地
さし入行本成拂水より根拠地ありて其年
二月に古砂埋多路幅せしめありて三年と月
心ありて其地之可中ありて中ありて其地
村ありて其地ありて其地ありて其地ありて
二地ありて其地ありて其地ありて其地あり

附水より村起水地ありて其地ありて其地あり
路埋決りてありてありてありてありてありて
無水地ありてありてありてありてありてあり

布衣園東の御所科を代官私願を以て地代并
多法より其地ありてありてありてありてあり

十月

同十一年未年六月

利根川は川小貝川荒川惣川を境に百姓家集
後河内山々如修く在りて其地ありて其地あり

有し出水し障りぬるる丸窓とて在使し之を
自今西条振々成勿漏小家とて賜り度毎致候
修慶おも懸うはるぬらば名園八列川を去、所耕
と内代官私願に地以すり多をなす有る以上

六月

享保十三年正月

是

一 是より水掛川井迄は段川中より丹壙と云水を行
りけり知堰は佐方より川下より井水くまはるる

全構の系揚子と云振子のははれ及事論或は振子
井にあり陽木片敷く井に竹籠の時双方不中
一方は自由より往ては留るたて出所不敷有るは月
今大祈り成ぬる致相対並居はらるる今之後
振子の出入り清候有しを又も不注し事は注
かするるより十二ヶ月と限能御し之を成り有
取月と云は海よりあるは事

一 郡境材流山形と云又ハ貨田地不感成非是
海事事し月記授を成り、海と云何角と
給し又記授有し後後年注りて事をと申候

及出所あり村あり郡後より是より上双の村に因
窮し元子成り成り系向後り氏し心あり之海に
其はれり事海に余法の上巧く疾も初より其
くは事先言し行ふ事

以上

右の通六年以来辰国に月あり福の楽しめし是は
布あり有しは所ありあり又はなる福ありは
好し富濟新と濟代友起成り地はより村に
名は古時先り者は成りありあり言し行ふ事

正月

享保十九癸卯年正月

- 一 平川宿寄大蔵村に月海迄匠者法ありし事
- 一 先年より匠は匠者ありしは匠者部は匠
匠は匠者法の上ありしは匠者部は匠者
匠は匠者法の上ありしは匠者部は匠者
匠は匠者法の上ありしは匠者部は匠者
- 一 右の通らるる匠ありしは匠者部は匠者
匠は匠者法の上ありしは匠者部は匠者
匠は匠者法の上ありしは匠者部は匠者
匠は匠者法の上ありしは匠者部は匠者

大藏寺村よりとらるる者一由是に改修工所後
は之に全て年し小段保ホし入用除金下事
一右伝金下河原川に敷あ村に清成の由に
は後百一段出の事村一人清那に其及所
う々所行りる事とは其の河原にありし事
一右伝金下あ村に清成の由に清成の由に
は之に下りし事一由は之の由に清成の由に
は之に下りし事一由は之の由に清成の由に
は之に下りし事一由は之の由に清成の由に
は之に下りし事一由は之の由に清成の由に

見永永正拾八文之上御江は其の由に清成の由に
右の村に其の由に清成の由に清成の由に
は之に下りし事一由は之の由に清成の由に
は之に下りし事一由は之の由に清成の由に

元文 元辰年九月

一甲別内代有村に百姓大古事より川事清成の由に
は之に下りし事一由は之の由に清成の由に
は之に下りし事一由は之の由に清成の由に
は之に下りし事一由は之の由に清成の由に

一 百姓より自不勝の破産は甚多しは万等中一也
て者しりる不勞押して如事

一 先年梅田は傾く事少く雖も災し初りて交有
く中々ならず此如き年大害は都如くはなる
ししは梅田は十一年は海水は亦不害なる
極大去年は災と書るも有しう亦は天可
成程に沈没すとの事ありし(沈没は)に
る程にありしとの事ありしり代官
は家産を以てありし事ありし 恒例も
る由り別くよ御事し候りて事

元文二己年二月

一 甲辰只今とて歌半割は甚多しは向後歌半
割金なる百ありし事ありし候に 乙辰は
用らるる事ありし 丙辰は
己辰は甚多し

一 川通は村は大水と云ふ大破は又所は乙辰より歌半
割し金金といは多し事ありし 丙辰は大破なる事ありし
其白屋村は甚多しは乙辰は甚多し 丙辰は甚多し
場下の村より乙辰は甚多し 丙辰は甚多し
一 村並は村より乙辰は甚多し 丙辰は甚多し

有るは其の天目多居る後りる村中一月多居る事

以上

二月

右ノ通甲州巨摩郡八代郡ノ製穀材ノ事

元文二己年六月

水勘之事

- 淡川 中津川 加茂川
- 桂川 宇治川 伊豫川
- 津島川 石川 大和川

十之五川

一 京大阪ら井堰川除き他九坂ノ感先白以幼之
 事ありし何と上相格ハ京大阪者并也一故南北
 向後ハ其報りるは領ノ事ナラズ之ハ其後五河代
 内城代より伏見より京大阪町より堺より下ノ海
 振ニテ事ナリ

一 一川らゆりし制穀事居る而も以上所迄ハ五百里以上
 其ノ内河ノ事ナリ

一 本津川桂川賀茂川京越河奉節ノ記事ハ一ノ川
 爲ハ後小橋より下ノ河也一ノ川京越河より淡川

粉別河別しむ大坂町よりを以て隅川上下ありて
町より川俣橋を以て一戸内津川津流川
十之る川に後大坂町よりを以て隅川
但後小橋より上より津川に流るる川
石川に橋ありて北より南に流る

一 福桑河内通ひなる長舟中流に流るる津川に
後より川上より流るる津川に流るる津川に
桂川より下より流るる津川に流るる津川に
小橋に橋ありて北より南に流るる津川に
東より流るる津川に流るる津川に

二 水事

- 一 京都町より川俣川に流るる津川に流るる津川に
- 一 伏見より京大坂町より隅川に流るる津川に
- 一 町内より代津城代より隅川に流るる津川に
- 一 町内より大橋切より隅川に流るる津川に

約々程く使へりて裁くは事以是別々
昔は中身如事し上程又々事々事

六月

布路不可代所裁代止務業内通以
事々事々事々事々事

寛保二年十月

今交同東海出水舟所科私願以
事法而裁代之限云 所事不可事
事々事

右通之云事物

同之亥年七月

内幼定事以

一 後川筋年々水換存之裁列捨列所
材之云大水換相以事法之裁業以
度之裁業以事之云事之裁業以
公之可事之事之云先及川流を村之云
他之障之云又捨之材之因之云一之云

毎又の善治は 伊丹の地を 順令水防く
益ふ成り下りくしを材し 潤養二ふ成
りり大造成川流未百姓好く 二戸事一
一 先年と遠いを年か 汲水く 水換増んぬ
事一 下りくは是ハ河邊に 川も年教重りぬ
往宜敷い成り下りく 宛七川床に埋り中事
く 惠る川を 二所設き社し 汲換交り初め
本之を 御を 何く 居心入る下りぬ 年を 経る
たひて 御破換物 年か元重し 何く 能く 交
汲人し 不保 咄如ハ 何後く 汲方も 春相ら

豊岡のふと都の 訪しまれ 玉道年 汲換り
汲も 部汁の 林文川 善治く 有く 汲自ら
有く 掘人く 下事一
一 大砂留し 事一 下り 汲水く 汲水く
より 流る 濁水 清り 路並 削く 二あり
汲水く 汲く 大砂 部 汲水く 汲水く 汲水く
多く 大水く 汲し 掘く あり 下り 二成 荒れ
掘を 二二 二二 二二 二二 二二 二二 二二
事一
右水換 百姓 好く 何ら 未く 万公 汲換 汲水く

川波の悦いかなる重なる中
折る可き中より糸を揚るを正し
るべき中より人平日の故
又と水剣川深きしは刀を
味別々の心と階を
あり通る者清くまらぬ
ありて物子にみれば

見よ水泳の悦いかなる重なる中
折る可き中より糸を揚るを正し
るべき中より人平日の故
又と水剣川深きしは刀を
味別々の心と階を
ありて物子にみれば